

活動名						
森の写真立て						
概要	○木の実や落ち葉等の自然物を使って、自分だけの写真立てをつくる。					
ねらい	○自由な発想で、思い思いに作品づくりを行うことによって想像力を養う。 ○道具の特徴や使い方を理解し、正しく安全に取り扱う。 ○よく観察することで、自然物に興味関心を抱くきっかけをつくる。					
関連教科等	生活・図画工作・理科・総合					
指導形態	①自主活動で実施、②職員は活動の説明のみ行う、③職員が指導を行う					
時期	通年	時間帯	日中	対象	幼児（大）～	
場所	創作棟	人数	～80人	所要時間	1.5～2時間	
準備物	施設で準備できるもの			団体・個人で準備するもの		
	土台となる木、木の実等の自然物、ニッパー ダンボール、写真サイズの型紙、はさみ、鉛筆 ホットボンド、木工用ボンド、のこぎり、ポスカ			作品を入れる箱		
進め方・展開例						
内容			留意点			
活動前	○打ち合わせを行う。 ・ねらいの確認 ・人数、材料の数、活動の進め方			○職員からの指導が活動の説明のみの場合は、活動の進め方や安全面、片づけ等について十分確認する。		
活動の説明	○例となる作品を見せ、動機づけをする。 ○活動の流れを説明する。 ○道具の使用方法を説明する。			○見本と同じものをつくるのではなく、自分の自由な発想でつくるように伝える。 ○創作説明用のシートを使用する。 ○特に刃物やホットボンドの使用の注意事項を伝える。		
展開	○必要であれば、自然物を野外に取りに行く。 ○土台となる木に、型紙がはさめるように木の実を接着する。 ○写真をはさめるように、写真の大きさに合わせて、ダンボールに飾り付けをする。			○危険な動植物への注意を促す。 (ハゼ、ウルシ、マムシ、スズメバチ等) ○自由な発想で作るよう促す。 ○あまり重いものを接着すると、バランスが取れずに倒れてしまうことを伝える。		
まとめ	○片づけをする。 ○お互いの作品を発表し合い、よさを認め合う。					
評価	○想像力をはたらかせて、思い思いの作品をつくることができたか。 ○道具の特徴を理解し、正しい使い方を習得することができたか。 ○身近な木の実や落ち葉等の自然物に、おもしろさや不思議さを感じることはできたか。					
発展	○写真だけではなく、たたき染めやスケッチなどの作品を飾ってもよい。					